

令和3年度 小平市立小平第八小学校 学校評価報告書

学校教育目標

学習指導要領に基づき、東京都教育委員会の教育目標及び基本方針、小平市教育振興基本計画を踏まえて教育課程を実施する。「確かな学力、豊かな人間性、健康な体」を基礎とし、コミュニティ・スクールとして、保護者、地域が一体となった学校づくりを目指す。地域に根ざした教育活動を推進することによって、「思いやりがあり心豊かな子」「すぐに社会に貢献しようとする子」「自ら学ぶ創造力豊かな子」「健康でたくましい子」の育成を目指し、教育目標を設定する。

目指す学校像(ビジョン)

- 【目指す学校像】 ○児童が登校を楽しみにする学校 ○保護者や地域社会に信頼され、応援していただける学校
- 【目指す児童・生徒像】 ◎思いやりのある子 ○よく働く子 ○工夫する子 ○元気な子
- 【目指す教員像】 ○それぞれの立場でよさを発揮し活躍する教員

前年度までの学校経営上の成果と課題

- 主体的に表現する子の育成に焦点を当てて、問題解決的な視点を取り入れた授業実践を行った。
- 児童を対象としたアンケート調査では、自己表現ができる子が微増したものの、大きな変化にはつながらなかった。今後も引き続き、指導・支援を講じていく。

	具体的方策	第1回評価		成果・課題・対策	第2回評価		学校関係者評価	成果・課題・次年度以降の対策
		取組指標	成果指標		取組指標	成果指標		
学力向上	授業・モジュール・家庭学習等で繰り返し練習させ、小テスト・計算名人検定・東京ベーシック・ドリルを行い、漢字や基本的な計算を習熟させる。	3	4	<成果>・計算名人検定や東京ベーシックドリルを活用して学力の定着・習熟を行うことができた。 <課題>・家庭学習の取組については、児童によって差がある。→個人面談等で家庭と指導の方向性を確認しながら、有効な手立てを行う。	4	4	・児童の意欲は高いが読解力、思考力・判断力に課題がある。改善策を確実に実施してほしい。 ・児童が学習者用端末の取り扱いに慣れるのは、相応の時間が必要だと思う。	<成果>・必要な児童に再テストを行い、習熟させることができた。 <課題>・問題を正確に読み解くことや考えの形成や記述が苦手。→問題解決型学習を充実し、「自ら解決方法を考える」「自分の考えをわかりやすく伝える」「友達と考えから自分の考えを深める」ことを大切に指導していく。
	1人1台の学習者用端末を活用して、個に応じた指導を工夫する。	2	2	<課題>・1学期は端末の開封から始めたため、機器の整備や基本操作を優先させていた。学習における効果的な活用方法は、今後力を入れていきたい。→全教員で使用方法を共有するための実践研修を実施する。	3	4		<成果>・学習者用端末を活用することで、ノート記述を苦手としていた児童も学習に取組やすくなった。 <課題>・少しずつ学習者用端末を活用しているが、「個に応じた指導の工夫」までは到達していない。
健全育成	毎月行われる校内委員会やいじめ対策委員会を中心に、組織としていじめ防止の取組を推進し、未然防止・早期発見・迅速かつ丁寧な対応に努める。	4	4	<成果>・いじめ調査の度に、クラスの間関係やトラブルの有無を見直し、いじめの未然防止に努めることができた。	4	4	・いじめは学校と家庭の共通認識が必要。 ・思いやり、優しさは誇れる。挨拶、廊下歩行は課題が残る。 ・登下校については、目が届きにくいため、保護者・地域でも連携して対応したい。	<成果>・アンケートの内容を、学年で共有して、小さなトラブルにも丁寧に対応することができた。
	「挨拶・思いやり・清掃・廊下歩行・外遊び」に関する月目標を設定し、全教員で一致した指導を行う。	4	4	<成果>・全教員で一致した指導を行ったり、代表委員会が中心となり廊下歩行や思いやりの取組を行ったりすることができた。	3	4		<課題>・重点目標に設定されている月だけ意識が高く、継続しづらい。→日頃から意識させる声掛けを行っていく。
キャリア教育	生活科・総合的な学習の時間を核として、各教科・道徳科・外国語活動・外国語科・特別活動等の授業において、学年に応じたキャリア教育の授業実践を行う。	3	3	<成果>・キャリア・パスポートを使って、自分の目標について考えさせることができた。 <課題>・コロナ禍で取り組める活動の幅が狭まった。→年間指導計画を練り直し、地域人材の活用場面を考える。	3	4	・困難な状況の中、状況を見極めながら適切に指導している。 ・コロナ禍でも実施可能なものに特化するとよい。 ・地域人材を大いに活用してほしい。	<成果>・コロナ禍においても、その中でできる創意工夫を行い実践できた。
	「ブロック班活動」「あいさつ運動」等で異学年交流を計画的に実践していく。	/	/	・異学年交流ができないため評価なし	/	4		<成果>・感染症対策のため、なかなか異学年交流の機会をもてないが、ICTを活用した取組等、新たな方法を探れている。
コミュニティ・スクール	ホームページの更新を週1回程度、コミュニティだよりは月1回発行、必要に応じて学校支援ボランティアだよりを発行する。	2	/	<課題>・ホームページの更新に偏りがでてしまった。→学年で担当を分担し、偏りが生じないようにする。	3	3	・ICT活用で情報伝達の迅速・効率化、ペーパーレス化を。 ・コミュニティだよりを通して共通理解を図りたい。	<成果> Chrome bookで編集可能になったことで、HPが更新しやすくなった。
	地域の意見を学校経営に取り入れるための話し合いを毎月の学校経営協議会でを行い、コミュニティだより等で教員・保護者に知らせていく。	4	/	・特記事項無し	4	3		・特記事項無し
業務改善	放課後の会議、研修等の精選を行い、授業準備・校務の時間を十分に確保し、事務作業はスクールサポートスタッフが代行する。	3	/	<課題>・コロナ禍により、計画自体から作り直しがあり、作業が増えた。→放課後に会議や研修をなるべく入れないように精選する。	4	/	・引き続き、業務を見直し精選し、教育の一層の充実を。 ・スクールサポートスタッフの協力、支援が先生方の業務効率を上げている様に思える。	<成果>・スクールサポートスタッフのおかげで、授業準備や教材準備にかかる時間が減り、大変助かった。 ・会議が減ったことで授業準備や校務の時間を確保しやすくなった。